

「避難計画はこれでいいのか」
 「爆発事の直接の放射能被害の究明は？」
 「最終処分場は予定地の再検討を」
 「高齢者のゴミ出し支援に力を」
 など、多彩な意見

10/29
 日本共産党議員団
 議会報告会
 (上越市市民プラザ)

日本共産党議員団は、10月29日に上越市市民プラザで、11月9日に板倉区コミュニティプラザで、それぞれ議会報告会を開催しました。

このうち、市民プラザでは、平良木議員が約20分間、市政の重要課題について報告した後、質疑応答、意見交換を行いました。参加者は10数名と少なかつたものの、活発な質問や意見が出され、予定時間を30分もオーバーするなど盛り上がりました。

話題が集中したのは、地域防災計画の原子力災害編と、ゴミの問題です。

参加者からは、「避難は原発が爆発してからでは遅い。それ以前に対応できるように働きかけを」「放射性物質が風によってどんなふう運ばれていくかだけでなく、原発からの放射線そのものがどうなっていくのかも究明すべきだ」「どんな避難計画を立てようと机上の空論となりやすい。原発は廃炉

日本共産党上越市議員団ニュース

No.385 2013年11月10日

連絡先
 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)



にする。これをめざして徹底した運動を行うことが重要だ」「宮野尾に計画されている最終処分場は、場所がふさわしくない。他の場所での再検討が必要だ」「高齢者世帯などで、ゴミを分けても出せないという世帯が増えている。もっと支援を」など、たくさんの質問、意見が寄せられました。

板倉区での模様は、次回お知らせいたします。

福祉交流プラザで
 第9回上越菊まつり

上越の秋を彩る「第9回上越菊まつり」が、10日まで交流福祉プラザ体育館で開かれています。丹精込めた大輪の菊がとこる狭しと展示されています。



開業後5年間は現行水準に

えちごトキめき鉄道が運賃見直しを発表 市民運動が実を結ぶ

その後の運賃・他社線との乗り継ぎなど課題も

10月31日、えちごトキめき鉄道は、上越市で取締役会を開き、運賃水準を開業後5年間で、現行のJR並みに据え置くことを決めました。

これは、並行在来線を守り、市民の足を確保しようという市民運動が、この間、広い市民の声を集約して運動を繰り広げ、会社にも要望してきたことが、実を結んだものです。

しかし、同社は、6年目以降の運賃を、「利用者数の動向を踏まえて検討し、現行の1・3倍以内に」という方針も発表しており、その後の運賃の引き上げも十分考えられます。

また、今回の発表は、あくまでも自社路線内の運賃であり、JRやほくほく線との乗り継ぎをする場合の運賃については「協議中」としており、明確ではありません。直江津駅をまたいで乗る場合、どちらの路線も初乗り運賃がかかり、事実上かなりの値上げとなる可能性があります。

たとえば、春日山く黒井間は、現在180円ですが、開業後にそ

れぞれ初乗り運賃がかかるのとすると、春日山く直江津で140円、直江津く黒井で140円と、合計280円になります。同様に、高田く黒井では、現行190円が、330円。高田く犀潟では、現行230円が380円と、いずれも大幅値上げということになります。

これらの点は、今後の各社の協議次第ということになりますが、各社に対して、行政、議会、市民が声を合わせて要望していくことで、乗り継ぎについても現行水準を維持していくけるようにすることが重要です。

なお、その他にも、運転区間が県境までに限られていること、長大トンネルのある北陸

線など、現行水準を維持していくけるようにすることが重要です。

